

みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議・第2回作業部会会議録

日 時 令和元年7月29日(月)14時00分から15時30分

会 場 大河原町役場庁舎3階第5会議室

出席者 仙南地域二市七町作業部会員・宮城インバウンド DMO (伊藤様)・アドバイザー
(サイクリスト湊様・菅田様、大河原振興事務所片桐様)・事務局員
(配布名簿のとおり)

1. 開会

2. あいさつ

3. 協議

協議前に、作業部会を基に11月開催予定の首長の推進会議に提出する事業計画のイメージを説明。今後パワーポイント編集をして作り上げていく予定。

協議1：みやぎ仙南サイクルツーリズム専用サイトについて

(資料②により説明)

宮城インバウンド DMO のサイクルツーリズムホームページに組み込む

インバウンドに向けたホームページだが、宮城県のサイクルツーリズムが集約されている、様々なサイトがあるより、プラットフォームとして活用できるのではないかと。多言語化あり。

随時更新ができるのか。一般社団法人 DMO のホームページ内に行政のページを割く形。運営経費について今年度東北観光復興対策交付金対応ができるが令和2年度からは見込めない部分もある。

専用サイトとして新たに立ち上げる

制作費50万円、ネット使用・保守管理等で月15,000円制度＋セキュリティ。多言語化ならない。

大河原町ホームページに追加ページ制作

制作費負担なし。大河原町でページ手づくり。多言語化あり。仙南地域のページに見えない。

DMO 伊藤 ホームページの所有は DMO 協議会にあります。ここに組み込む場合、所有は DMO 協議会となります。交付金が切れた場合、DMO 協議会が解散となった場合にはどこが持つかは話し合いが必要。交付金が継続する場合は更新費用がなくともできますが、新しい祭り、立ち寄り場所ができた場合などは経費が発生します。多言語化もしていますので。四市九町内の対応をするという交付金ですから、継続していく場合は DMO のホームページ活用が一番お金の無駄がないと思いますが、みやぎ仙南サイクルツーリ

ズムとして、どうしてホームページが必要なのかというところからご検討
いただいております。

事務局 仙南地域の情報発信の集約の場と考えています。DMOのホームページ
は四市九町だけでなく宮城県全体が入っている。

DMO 伊藤 サイクルプラットフォームは四市九町の素材を基本に作っていま
すが、使い勝手がいいように県全域、東北全域まで網羅したいと考えていま
す。

事務局 交付金によりホームページ運営がされていますが、今後の交付金が切
れる。維持できるかの不透明な部分も。

DMO 伊藤 交付金の財源がなく今後組織がどのようになるか。手の届く範囲は
維持管理しますが、状況によっては更新をしない固まったホームページに
なることも。管理自治体として持ってもらえる方法があるか、生きた情報を
譲渡するという選択など、判断は今後になります。

事務局 ホームページがどこまで必要か。イベントは市町ごとあって、サイトも
持っている。市町でサイクルの観光ページはない。それを併せもって活性化
するためのホームページとする考えでした。みやぎ仙南サイクルツーリズム
ムとしてスタートする際に固定した仙南のサイクル情報が集約したものが
あった方がよいのではという感じでした。

市や町でサイクルツーリズムは、まだ煮詰まったものになっていないので
あれば、サイクリストからするとフェイスブックの方が情報入手、交流し
やすいという点もあるし、もっとサイクルツーリズムの仕組みという熱が
あがったうえでサイトを持つというのもありといえます。まずは事務局で
フェイスブックを立ち上げて、手づくりで進めて、実になってきた際にサイ
ト立ち上げでも。

白石市 サイトを含め他の協議も DMO が先行している部分があります。DMO
と我々は他人の関係ではないですし、情報発信が民間でできるのであれば、
行政がやる必要もないので、行政でなければできないことをする方がよい
のでは。コース整備等、そのタイミングが来るまで、できるだけ行政は消耗
しないように民間にお願いして。目指すものは我々行政も DMO も同じだ
と思うので役割分担というか共同でやった方がいいのではないかと。

DMO 伊藤 今回の交付金事業で自治体発着のコースを新たに造成しています。
今のところ5つ作っていますが、この作業部会でこんなコースを載せてほ
しいという話になれば非常に載せやすい。DMOの動きも公表してほしいと
いうことも言われています。データを収集していますが、市町の担当者が考
えているものと違うと意味がなくなってしまうので、双方の思惑が近くな
れば、このワーキングの手間も省けるのでは。

事務局 インバウンドに対する情報発信は固定情報になります。駅を出発して観光地をめぐるサイクリングコース、1回見ればいい旅行者専用。何年か動かない部分、仙南地域の固定情報を掲載いただくような。

DMO 伊藤 ホームページ制作費 50 万円とありますが、どのくらいの情報が載るのか、それで見ると人は満足するのかと考えた場合、50 万円をかけるのであれば、別の方向の使い方、ウェブにかける方法もありますし。

アドバイザー 湊 情報発信の窓口をどうするか、サイクルツーリズムになるだろうという感じになっていますが、各市町で自転車のスポットになりえる場所は実際どこなのか、その集約を行ったうえでコンテンツの整理が一番最初に必要。ドライブ観光に対して観光案内していると思いますが、自転車で来る人のためにと考えたときに実際どうなのか。車で行ったら面白いけど、自転車で来たら面白くない。自転車で来るなら、こういう所がいいんじゃないかというコンテンツのあぶり出しをこのメンバーで考えていただけたら。それを加工して表現するのが専用サイトなのか、フェイスブックなのか **DMO** 既存コースに載せる。ポイント、ポイントをつないでコースとして載せる。それが日本人相手なのか、外国人相手なのか、それを紙にすればライブマップになるし、日々の更新だとフェイスブックだし。最終的には表現の形態というより、地域に合うサイクルツーリズム向きのコンテンツって何かを考える方がよい。

私は自転車乗りなので、サイクリスト目線でジャッジできる。ここで写真を撮ると良いとか、ここのジュースがおいしいなど、最近蔵王の方でもヨーグルトやアイスクリームの店が山の方にできたとか、そういうものを自転車の人って目的に走っている。市町で 10 とか、20 とかコンテンツを出して、それをサイクリスト目線で、いいのか悪いのか整理していくというのもあり。いろいろなものを発信する前の、コンテンツ作りというものを近々行うというのが必要。

観光の仕事は最終仕上げが 3 月くらいなので、エンジンがかかるのが 10 月ごろ。そのときだと魅力的な絵がとれない、今からコツコツやっておくのが一番いい。

事務局 各市町の連携事業なので、どうしても会議で予算化がはかれないと令和 2 年度に何も始まらないので、はじめにどんな事業をしましょうかになってしまう。次年度のために情報収集をはじめて、このようなイメージにしていくという準備は必要だと思います。各市町の自転車につながる魅力をどのように組み合わせたらよいか、みんなで協議していければ。行政側で自転車コースや立ち寄り処をつなげるため環境分析調査としていましたが、サイクリストから助言いただくのでしたら環境分析調査はいらなくて、市

町の案に対してアドバイスをいただくのは有難いです。

アドバイザー 全体で 200~300 のスポットを書類上で振り分け、いろいろな人に期間内に見てもらおう。その集約をして、あり、なしか判断して優先順位をつけて掲載。

出かけるとサイクルマップを集めます。ウェブやフェイスブックがあるのが当然として、うちに来てくださいと観光行政がしているのは紙のばらまき。必要最低限必要な部分で、時代が変わっても集約した紙が必要。安いし、手元に残るし、何かという手に取る。そのうえ必要な人はウェブで見ている。ライブマップを作るのが目的ではなく、情報を整理してある程度確定、集約情報を優先順位をつけて最終的に決める。

事務局 市町を跨いだうえでのコースというのは仙南二市七町の中でどのようになるのか。イメージできていない部分があります。

アドバイザー 丸森でコースを作るのに大変だった。見せたい場所、丸森はすごくある。それをつなぐとコースになるという感じだったんです。少しエリアの広いところであれば、皆さんどんどん提示して、この時期はいいぞ、これを見せたい、つないでいくとコースがいっぱいできて。実際、コースにしたからといって、そのとおりに走る人はあまりいない。コースというのはあくまでも提案。モデルコースみたいな部分は割り切って、本当に必要なのはスポットの情報だと思うんです。

事務局 推奨コースという形で、何通りか、仙南でそういう動きがあるんだという形を見せたい。二市七町を跨がったコースはないので、サイクリストに目を向けてもらいたい。

首長の会議に、このような事業を仙南地域で展開するというのを認めていただけないと何も進まない。仙南地域をサイクルツーリズムで売り出したい。その手法を考えるのがこの作業部会。関係するサイトを集約していくとか、ガイドマップを制作し、初心者が始めようとするきっかけにするとか。作業部会で専用サイトの作成までいかないという判断でしたら、まずはフェイスブックからサイクリストに投げかける。それを首長の会議で認めていただき、来年度にしか予算はつきませんが、今年度に皆さんの中の情報を収集し、ためていく。首長の会議でイメージを提示するのも必要です。

サイクリストとつながりをつくりたいと思いますので、フェイスブックで何かしら発信していくことを考えさせていただければ。

アドバイザー このような仙南地域で自転車での活性化を話しているということを発信したらいいと思います。私たち、やっていますよ、みたいな。その市町の情報、近隣のイベントなど、この会議の中で出たら発信していいんです。

事務局 大河原に観光施設がないのですが、施設を持っている市町だと施設に

足を止めてほしいという企画があると思います。仙南地域に足を運んでもらえる情報発信をフェイスブック中心にどのように発信したらよいか検討させていただくということでよいでしょうか。

作業部会員 「了解」

白石市 推進会議のサイトが1枚必要でしたら、1ページだけ作ってフェイスブックやDMOで見せても良いのでは。どうしても必要でしたら。

事務局 やはりサイクルツーリズムの熱がないままですと難しい。イベントもスポーツ、競技、地域づくりなど観光との連携がはっきりしていないこともあります。

事務局で、今いただいたように作業部会の動き、推進会議の内容など大河原町のホームページで紹介していくのもありかと。その中で情報発信をしていく。準備段階の情報発信をさせていただく。フェイスブックでどう進めていくかも考えていきます。

環境分析調査も協議に入っていましたが、各市町の情報がたくさん集まった際に湊さんにご協力いただけましたら、改めた調査はしないということ。

アトバイザー-湊 実際、地域を見に行くことになれば、我々だけでいいのかという問題があります。方法によってコストが発生しますが。

事務局 それではガイドマップに関する材料集めを進めさせていただくことで。自転車の方が行きやすいのか、魅力を感じるのか作業部会の中で出させていただくシートを作ります。

宮城県市町村振興総合補助金

たとえば、事業費を200万円とした場合

各市町の推進会議運営費負担金 10万円×9市町=90万円

大河原町事業費負担 110万円 大河原町から宮城県に補助金申請

対象となれば 110万円×1/2=55万円補助、大河原町負担 55万円

・大河原町事業費をガイドマップ制作費とした場合、経費抑制としてマップの原図は「みやぎ蔵王三十六景ナビゲーションマップ」を活用させていただく。

※大阪湾南部サイクリングマップなどガイドマップを紹介。

アトバイザー-菅田 ガイドマップを持たせるのであれば、サイクルウェアの後ろポケットに入る大きさ。アイフォーンくらいがいい。

事務局 サイズはできるだけ小さいものに。市町でサイクリングコースを想定、立ち寄り処を考えてサイクリストに確認いただく流れ。情報収集を次回までに作業いただくこととなります。中級、上級者は自分でコースを組み立てられますが、初級者はどこを走っていいかわからないことも。仙南地域を初

初心者用、走り始め用のガイドマップにするというのはどうでしょうか。平坦な道路も多いので。

アトバ伊湊 考え方としてあります。早坂サイクルでも、初心者向けガイドブックをもとに走行会みたいなことをやっています。10～20キロ。仙台からすると遠いかも。仙南スタートであれば50キロで回れるので、ありといえはあり。上級者はスポット情報でよいので、初心者に絞って配慮もよい。

事務局 他のマップに載っていましたが、土日、役場とかをサイクリングの駐車場に開放しているのがありました。自転車を載せて車で役場に来て、そこから出発というパターンです。

アトバ伊湊 それは有難いです。コインパーキング500円上限みたいな場所を探しますが、郊外に行けば行くほどコインパーキングがない。道の駅に停めていいのかというと本当はダメなのでしょうけど。郊外の体育館みたいな所に停めると、何時に施錠されるか心配です。ちゃんと駐車していいというルール化されていると安心に行けます。役場のここなら何時から何時までならいい、ダウンロードして駐車していいというプリントを持って入れてもらえれば。

事務局 施設もない大河原町は、それしかできないかも。

ガイドマップについてですが、皆さんから情報を資料にいただき、今年度はためて、来年度予算がついたときに業者に委託する、仕様書をまとめることでよろしいでしょうか。

フォトコンテストで写真を集めたい、素材集めしたいというのがありまして、素材がないと仙南をアピールできないので。募集、投稿の仕組みが重要というご意見もいただきましたので、サイクリストの団体に投げ込みやイベント時に呼びかけるとか、大河原町のサイクリング代表メールに送ってもらうなど、考えてみます。

白石市 情報発信の目的であればインフルエンサーを使っていかないと。私がアップした写真は友達は見ても、他の方は見ないと思う。その辺も少し考えていかないと。

事務局 前に湊さんから、青空でひまわり畑まえで自転車を担いで持ち上げている女性がいて、インパクトがあっけ見入ってしまったのですが、仙南地域の風景でそのようなサイクリストとの組み合わせで情報発信できればと思います。まず、サイクリストの撮りためた写真がどのくらいあるか、試しにして、目をひくきっかけになれば。

アトバ伊湊 インスタのサイクルアカウントのところに、松島でやっているハッシュタグ（#）をつけて載せてもらえば何か差し上げますという投稿を誘発しているのがあります。菅田さんが普段お付き合いしているライダー100

人ぐらいに声掛けする、そこから広がっていく。ある程度の期間を設けてやったらいいと思います。

春や秋のイベントで投げかけたり、仙南地域うまいものを差し上げますみたいな、自転車といいながら観光振興の部分でいろいろやれると思います。

白石市 このエリアではインフルエンサーの方に協力いただいた方が。同じようなフォトコンテストをやったことがあります、あまり集まらなかった。提言いただいたように、サイクリスト仲間に広めていただいた方がよいと思います。

事務局 作業部会を進める中で、アドバイザーの方から目線の感覚や手法を教えていただく方が道筋として正しい方向に行くのではないかと思います。今後、来年度にかけてもご協力をいただければ。謝礼や委託など何かしらの方法でお願いしたいと思いますが。

アドバイザー 湊 イベントを行って、民間でやれること、やれないことを実感しました。地域内の人の部分、つながりは自治体の方と協力しないとできないと思っています。人の部分はその地域に住んでいる方の協力を得ないとなかなかできない。地域の方にかかわっていただいて、盛り上げていただくということは自転車で来た方たちの満足度に関わってきます。この前のイベントでゴールした方々をお迎えするところまで人がさけなかったこともあったり。このような盛り上げがあると地域の見方、観光にも一役買える。一緒にやれる部分はやっていきたい。

事務局 サイクルツーリズムの浸透はまだできていないという中、盛り上げていくには自治体とサイクリストの見識を併せて進めていかないとできないということ。

協議4のフォトコンテストはフェイスブックでの呼びかけでもいい感じですが、コンテストしてますという話題で今まで見ていない方に振り向いてもらえるかもしれないので。フォトコンテストといかなくとも、投稿いただく形で仙南地域に注目を集めるものがあれば検討していきます。

事業計画としては、まずガイドマップによる情報発信を行う。そのイメージを9月末までまとめて、11月の首長の推進会議で事業計画の説明とともに提示していくということで。9月初めと10月初めで、事業計画とガイドマップイメージをまとめて、10月末までに仙南の担当課長会議で説明し、11月の推進会議にあげていきます。

次回、議会も始まってきて忙しいとは思いますが、9月6日（金）午後2時から、この会議室で行いますので、予定のほどよろしくお願ひします。

4. 閉会のあいさつ 大河原町平野係長

専用サイトは機を待つ形で保留。サイクリングコースの環境分析調査はし

ない。ガイドブック制作のための情報提供を各市町からいただき、その情報に対しサイクリスト有識者から意見、試走等ご協力をいただく方向に。仙南地域を跨ぐサイクリングコースのモデルコース、立ち寄りスポットを紹介等情報発信する。今年度情報収集、来年度に予算化実施。フェイスブックの準備を事務局で進める。フォトコンテストがいいのか仕組みを今年度組み立て、来年度フェイスブック内で呼びかけをするということとさせていただくものとして、次回に具体的に詰めていきますので、よろしく申し上げます。

5. 閉会